

幼児教育の父 倉橋惣三(静岡県出身)と保育絵本について

進藤令子

The Father of Early Childhood Education: Sozo Kurahashi (born in Shizuoka Prefecture)
and childcare picture book

Reiko SHINDO

はじめに

1926年(大正15年)公布の「幼稚園令」で新たに加えられた保育項目「観察」に役立つ保育教材として1927(昭和2)年11月に創刊された『観察絵本キンダーブック』(第1篇 お米の巻)は、日本で初めての保育絵本である。本学図書館では、2017(平成29)年7月7日から企画展「創刊90年キンダーブックに見る戦後の子どもたち」を開催し、主に1946(昭和21)年発行の戦後第1号～1955(昭和30)年8月号までの約10年間の『キンダーブック』を中心に展示を行った。

また、図書館では企画展に併せて、創刊当時の1928(昭和3)年に発行した販促用の内容見本誌を古書店から入手し公開を行った。同見本誌は出版社の(株)フレーベル館も所蔵していないため、全国的にも大変珍しい資料であり、表紙や裏表紙のデザインは斬新であり、当時の文部大臣他の推薦文も掲載され、昭和初期の日本で、幼児教育の重要性が認識されていたという幼児教育研究の記録資料と言える。

1928(昭和3年)発行の『キンダーブック』の「櫻の巻」と内容見本誌の内容は、外国文化の影響を受け、表紙が洋風なデザインの体裁で出版された。

東京高等師範学校附属小学校主事、佐々木秀一氏が、内容見本誌に寄せた「キンダーブックに対する感想」の中で、「欧米をまわって見て向こうの教科書、雑誌、その他の美術品が、教育に対して演じている役割の著しく重大なるを見て、羨ましくてたまりかねていた」と、あるように、外国文化への憧れと、受容しはじめた時代の流れをこの二冊から感じ取ることができる。今回は同誌の創刊号【1927(昭和2)年11月お米の巻】から編集顧問として活躍した静岡市鷹匠町出身の倉橋惣三(1882～1955)の同誌への関わりを考察する。

倉橋の『キンダーブック』との関わりについては、

従来までは、第2編乗物の巻から編集顧問に就任したとなっていたが、図書館所蔵のもうひとつの創刊号(B4版)を確認したところ、新たに創刊号より編集顧問として関わっていたことが判明した。

倉橋が出身地の静岡市において、『キンダーブック』と同水準の保育絵本『あそび ASOBI』1948(昭和23)年6月創刊、片井商会、静岡県福祉事業協会)の創刊に関わっていたことについても考察することとしたい。倉橋は国内だけではなく出身地の静岡市の幼児教育の発展にも大きな役割を果たした。

1. 倉橋惣三の歩み

倉橋は(株)フレーベル館刊行の『キンダーブック』の創刊号から編集顧問として、1955(昭和30)年4月に逝去するまで同誌の内容と解説に一貫して同誌の編集に携わり、戦前から戦後の『キンダーブック』の編集・出版に大きな役割を果たした。

2025年は倉橋逝去70年を迎える。

倉橋の人生の歩みから振り返ることとする。

和暦	西暦	歩み
明治15年	1882	12月 倉橋正直・とくの長男として静岡市鷹匠町に生まれる。
明治23年	1890	4月 ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)来日
明治39年	1906	7月 東京帝国大学哲学科卒業
明治43年	1910	5月 東京女子高等師範学校講師
明治45年 大正元年	1912	1月 『婦人と子ども』の編集兼発行者となる。大正7年に『幼児教育』大正12年に『幼児の教育』に改題

大正6年	1917	11月 東京女子高等師範学校教授昇格、附属幼稚園主事となる。
大正12年	1923	9月 「お茶の水人形座」の名で幼児のための人形芝居を始める。
大正13年	1924	3月 東京女子高等師範学校附属高等女学校主事に就任
昭和2年	1927	3月 東京女子高等師範学校附属高等女学校主事を辞め教授だけとなり各方面において活躍する。 11月 幼稚園令に伴い、『観察絵本キンダーブック』第1編「お米の巻」創刊(定価50銭)編集顧問。
昭和4年	1929	1月 『観察絵本キンダーブック』第2集編集会議実施(出席) 12月 文部省社会教育官兼任、成人教育指導従事。
昭和5年	1930	10月 東京女子高等師範学校附属幼稚園主事を命じられる。
昭和12年	1937	4月 ヘレン・ケラー来日 11月 皇太子殿下のお遊び相手として東宮御所へ出仕(～昭和14年)
昭和21年	1946	4月 米国教育視察団報告書発表(育児学校(保育所)や幼稚園の設置等を勧告) 8月 『キンダーブック』第1集第1編の復刊に携わる。 10月 『幼児の教育』復刊編集主幹・倉橋惣三、編集委員・山下俊郎他
昭和23年	1948	6月5日、静岡県初の保育絵本『あそびASOBI』創刊 ※倉橋が創刊に関わる。
昭和24年	1949	12月 東京女子高等師範学校教授依願免官
昭和26年	1951	2月 (株)フレーベル館顧問 新経営陣決定により、『キンダーブック』の主な執筆者武井武雄、初山滋、吉澤廉三郎、黒崎義介、鈴木寿雄、河目悌二らを歴訪し、一層の協力を要請。
昭和28年	1953	6月 『幼稚園真諦』刊行

昭和29年	1954	12月 『子供讃歌』刊行
昭和30年	1955	4月 逝去(72歳)

『フレーベル館100年史』(株)フレーベル館より

2.倉橋惣三と保育絵本について

倉橋が『キンダーブック』に執筆を開始した昭和7(1932)年から逝去した記事が掲載された昭和30(1955)年までの期間に、倉橋の執筆作品は160作品(戦前75作品、戦後85作品)にのぼった。
(倉橋逝去の記事は、生前最後の文と共に昭和30(1955)年第10集4号「さかな」に掲載された。)倉橋が戦前～戦後の『キンダーブック』に関わった経緯について考察する。

(1)戦前の幼児教育と『キンダーブック』

大正15(1926)年に制定された「幼稚園令」の保育項目に従来の遊戯、唱歌、談話、手技に加えて観察が入ったのを受けて、倉橋と『観察絵本キンダーブック』の関わりは、第1編「お米の巻」(1927年11月創刊)に賛助員として開始された。
(株)フレーベル館社長の高市次郎がライバルと言える『コドモノクニ』編集顧問であった倉橋を房総までたずねて説得、編集顧問に迎えて、第2集より同誌編集会議に出席を開始し、逝去するまで『キンダーブック』の編集・発行に28年間にわたり携わり、日本の幼児教育の礎を作ると共に発展に尽力した。



『キンダーブック』
創刊号復刻版(本学所蔵)



『キンダーブック』内容見本
1928(昭和3)年(本学所蔵)

(2)戦後占領下の幼児教育と『キンダーブック』

戦後直後の1946(昭和21)年10月に発行された『幼児の教育』復刊号(編集主幹：倉橋惣三 日本幼稚園協会発行 (株)フレーベル館)に倉橋が「新日本建設と教育」と題して次の文を掲載した。

「幼児教育が國の將來への基本であることは、いつでもの眞理である。しかも、新日本建設といふ、未曾有

の變革と、まっしぐらの躍進との今日において、その担当する使命は、特に、殊に、大きくまた深いものである」とあり、戦後の廃墟、復興、占領下で日本の幼児教育再生への倉橋の想いが伝わってくる内容である。戦後占領下の1946(昭和21)年、1950(昭和25)年に米国教育使節団は日本の教育改革の構図についてGHQ(連合国軍総司令部)に「米国教育使節団報告書」(以下、報告書と略す)を提出した。

倉橋は、戦後の幼児教育界を代表する存在として、「米国教育使節団」に協力することを目的に発足した日本側教育家委員の一人として任命されたことは、メディアが発達していない当時の日本において、幼児教育の再生のためには子どもたちに新しい日本の再生をわかりやすく伝える児童書の発行が必要であることを同使節団に理解されるように、大きな役割を果たしたと言えるのではないかと推測する。

1946(昭和21)年4月に同報告書が発表された直後の8月、『キンダーブック』第1集第1号「ムギ」の復刊が許可され、出版が開始されることとなる。

1946(昭和21)年の報告書を受けて、復刊第2号となる『幼児の教育』に、倉橋は「米国教育使節団報告書中の幼児教育に関する提言と学校教育の元への延長について」と題した記事を掲載している。



『キンダーブック』

復刊第1号(本学/筆者所蔵)



『幼児の教育』

復刊第1号(本学所蔵)

『キンダーブック』[戦前編 倉橋担当 75 作品]

No	発行	掲載号	表紙タイトル・執筆内容
1	昭和7年 4月	第5集 第1編	キレイニナリマシタ 付録「ツバメノオウチ」 「ツバメノオウチについて」
2	昭和7年 5月	第5集 第2編	トケイ 付録「ツバメノオウチ」 「お母さまと保母さんの講座 (一)絵雑誌の見せ方」
3	昭和7年	第5集	セカイノユウギ

	6月	第3編	付録「ツバメノオウチ」 「お母さまと保母さんの講座 (第二講)散歩(其一)」
4	昭和7年 8月	第5集 第5編	ハシ 付録「ツバメノオウチ」 「お母さまと保母さんの講座 (第四講)子どもとのはなし」
5	昭和7年 12月	第5集 第9編	オオカワイ! 付録「ツバメノオウチ」 「お母さまと保母さんへ お可愛い(第6講)」
6	昭和8年 3月	第5集 第12編	イマトムカシ 付録「ツバメノオウチ」 「教育講座今と昔」
7	昭和9年 7月	第7集 第4編	マネゴト 付録「ツバメノオウチ」 マネゴト
8	昭和9年 8月	第7集 第5編	ミヅ 付録「ツバメノオウチ」 水に因める各種の場面
9	昭和9年 10月	第7集 第7編	リョカウ 付録「ツバメノオウチ」 旅行に対する子どもの興味
10	昭和10年 1月	第7集 第10編	オト 付録「ツバメノオウチ」耳観察
11	昭和10年 5月	第8集 第2編	ウミノニッポン 付録「ツバメノオウチ」 海の日本
12	昭和10年 8月	第8集 第5編	カハ 付録「ツバメノオウチ」 長い川 その場その場の川
13	昭和10年 9月	第8集 第6編	ムシノセクツツ 付録「ツバメノオウチ」 驚く可き虫!
14	昭和10年 10月	第8集 第7編	ムラ 付録「ツバメノオウチ」 村
15	昭和10年 11月	第8集 第8編	クルマガマハル 付録「ツバメノオウチ」 廻れ、廻れ、廻れ
16	昭和11年 2月	第8集 第11編	キモノハナニカラ 付録「ツバメノオウチ」 人間の生活
17	昭和11年	第9集	ゴクラウサマ

	4月	第1編	付録「ツバメノオウチ」 御苦労さま
18	昭和11年 9月	第9集 第6編	クサ 付録「ツバメノオウチ」 子どもと懇意な草
19	昭和12年 2月	第9集 第11編	ジドウシャノイロイロ 付録「ツバメノオウチ」 児童車の巻 逃げ出し記
20	昭和12年 4月	第10集 第1編	ヨイコドモ 付録「ツバメノオウチ」 良い子ども
21	昭和12年 11月	第10集 第8編	チヒサイイキモノ 付録「ツバメノオウチ」 小さい生きもの
22 23	昭和13年 3月	第10集 第12編	ヘイタイサン 付録「ツバメノオウチ」 ・なぜ子どもは兵隊がすきか ・支那の坊やお菓子をあげよう
24	昭和13年 6月	第11集 第3編	ネコサマ 付録「ツバメノオウチ」 幼児は話し手を観察する
25	昭和13年 11月	第11集 第8編	オダウグ 付録「ツバメノオウチ」 実際生活
26	昭和13年 12月	第11集 第9編	グンコクノコドモ 付録「ツバメノオウチ」 軍国の子ども
27	昭和14年 4月	第12集 第1編	オトウサン・オカアサン 此の巻のことば
28	昭和14年 5月	第12集 第2編	ヘイタイサン アリガタウ へいたいさんありがとう
29	昭和14年 6月	第12集 第3編	メヅラシイドウブツ 珍しいといふこと
30	昭和14年 7月	第12集 第4編	ソラノオハナシ 空の話
31	昭和14年 8月	第12集 第5編	アリノハナシ 蟻と観察
32	昭和14年 9月	第12集 第6編	オヒャクシャウ 生活観察
33	昭和14年 10月	第12集 第7編	ツバメノオハナシ 燕と子ども
34	昭和14年 11月	第12集 第8編	ミンナデイッシャウケンメイ 子どもの真剣さ

35	昭和14年 12月	第12集 第9編	オモチャ おもちゃの巻
36	昭和15年 1月	第12集 第10編	コウマノオハナシ キンダーブックノミカタ
37	昭和15年 2月	第12集 第11編	ワレラノニッポン 付録「ツバメノオウチ」 ワレラノニッポン
38	昭和15年 3月	第12集 第12編	アタラシイシナ 支那の知識
39	昭和15年 4月	第13集 第1編	ハルガキタ 季節と子ども
40	昭和15年 5月	第13集 第2編	コドモハツヨイ 興亜の子供
41	昭和15年 6月	第13集 第3編	ハナゴヨミ 花ごよみ三感想
42	昭和15年 7月	第13集 第4編	クニノマモリ 武器のたましひ
43	昭和15年 8月	第13集 第5編	ウミノハナシ 海
44	昭和15年 9月	第13集 第6編	ハタラクドウブツ 動物も動く
45	昭和15年 10月	第13集 第7編	ノニモヤマニモ 充実の秋
46	昭和15年 11月	第13集 第8編	トリ 見なれてゐて知らないもの 見なれないで知ってゐるもの
47	昭和15年 12月	第13集 第9編	キシヤ 汽車、汽車
48	昭和16年 1月	第13集 第10編	オトナリナカヨシ お隣のなかよし
49	昭和16年 2月	第13集 第11編	ボクハクスノキデス 子どもといっしょに良く聞かせよう
50	昭和16年 3月	第13集 第12編	ワカリマスカ デキマスカ 知能あそび
51	昭和16年 4月	第14集 第1編	オトモダチ 幼稚園＝お友達
52	昭和16年 5月	第14集 第2編	三ッノオハナシ 時局と子供
53	昭和16年 6月	第14集 第3編	ミナミノクニ 国策と子ども
54	昭和16年 7月	第14集 第4編	ハシレハシレ 子どもの、ものの見方

55	昭和16年 8月	第14集 第5編	アラヒグマノハナシ いろいろなものがあるものだな
56	昭和16年 9月	第14集 第6編	オコメヲタイセツニ 国民理科
57	昭和16年 10月	第14集 第7編	デンショバト やさしい はとが みくにのために こんな おもい いくさの ごようをする
58	昭和16年 11月	第14集 第8編	ツチノナカノハナシ かくれた興味
59	昭和16年 11月	第14集 第9編	ハタラクヒト 働く人の尊さと喜び
60	昭和16年 12月	第14集 第10編	ミクニノコドモ みくにの子ども
61	昭和17年 1月	第14集 第11編	ユキノオウチ 雪の子
62	昭和17年 2月	第14集 第12編	ハナトムシ 生きた観察
63	昭和17年 3月	第15集 第1編	ニッポンノハル 日本の春
64	昭和17年 4月	第15集 第2編	ソラトウミ 空と海
65	昭和17年 5月	第15集 第3編	オホキイフネチヒサイフネ 海国小国民と舟
66	昭和17年 6月	第15集 第4編	コドモノナツ 夏・自然・子ども
67	昭和17年 7月	第15集 第5編	オハナシメグリ 南の日本から 子ども達への 贈り物
68	昭和17年 8月	第15集 第6編	ハレタミソラ 清朗な性格
69	昭和17年 9月	第15集 第7編	アキノトモダチ なかのいいともだち
70	昭和17年 10月	第15集 第8編	シンセツナオトモダチ 絵と文
71	昭和17年 11月	第15集 第9編	特集号 十二月八日 忘れられない十二月八日 わすれさせてならない十二月八日
72	昭和17年 12月	第15集 第10編	オメデタウ オメデタウ
73	昭和18年 1月	第15集 第11編	カゼ 風の幼稚園

74	昭和18年 2月	第15集 第12編	オウマ 馬に寄せる心
75	昭和18年 8月	第16集 第6編	タネカラ ミマデ 観察の整理

『キンダーブック』[戦後編 倉橋担当 85 作品]

	出版	掲載号	表紙タイトル・執筆内容
1	昭和21年 8月	第1集 第1編	ムギ 新しいもののキンダー ブックの再刊
2	昭和21年 10月	第1集 第2編	ウミトコドモ ウミ
3	昭和22年 4月	第2集 第1編	ようちえん あさのようちえん
4	昭和22年 10月	第2集 第7編	ありがとう ありがとう
5	昭和23年 5月	第3集 第2編	ねことねずみ童話特集号 ごあいさつ
6	昭和23年 9月	第3集 第6編	おつきさんのたび 復刊付録「つばめのおうち」 月と子ども
7	昭和23年 10月	第3集 第7編	おちばときのみ 付録「つばめのおうち」 おち葉と子ども
8	昭和23年 11月	第3集 第8編	おまわりさん 付録「つばめのおうち」 おまわりさん
9	昭和24年 1月	第3集 第9編	汽車 付録「つばめのおうち」走る 汽車
10	昭和24年 3月	第3集 第11編	はなうりおじいさん 付録「つばめのおうち」 村から町へ
11	昭和24年 4月	第4集 第1編	こどもどうぶつえん 付録「つばめのおうち」動物園で
12	昭和24年 5月	第4集 第2編	とけい 付録「つばめのおうち」いま何時？
13	昭和24年 7月	第4集 第4編	おてがみ 付録「つばめのおうち」おてがみ
14	昭和24年 8月	第4集 第5編	うみのこども 付録「つばめのおうち」 海の子ども
15	昭和24年 11月	第4集 第8編	りんご 付録「つばめのおうち」

			りんごの社会科
16	昭和24年 12月	第4集 第9編	ぼくのおうち 付録「つばめのおうち」 子どもと家族生活
17	昭和25年 1月	第4集 第10編	たのしいのりもの 付録「つばめのおうち」 すずめ すずめ
18	昭和25年 4月	第5集 第1編	はるのおともだち 付録「つばめのおうち」 春の自然は子供の仲よし
19	昭和25年 5月	第5集 第2編	おかあさん 付録「つばめのおうち」 おかあさん
20	昭和25年 6月	第5集 第3編	おひさま 付録「つばめのおうち」 太陽の子供
21	昭和25年 7月	第5集 第4編	ゆうびんやさん 付録「つばめのおうち」 郵便屋さん御苦労さま
22	昭和25年 8月	第5集 第5編	あり 付録「つばめのおうち」 蟻の一匹一匹に注意して
23	昭和25年 9月	第5集 第6編	いろいろなおうち 付録「つばめのおうち」 子供といっしょに此巻を見る心
24	昭和25年 10月	第5集 第7編	おみせやさん 付録「つばめのおうち」お店や
25	昭和25年 11月	第5集 第8編	わたくしたちのために 付録「つばめのおうち」 社会的感謝の心
26	昭和25年 12月	第5集 第9編	きもの 付録「つばめのおうち」 いろいろの きもの
27	昭和26年 1月	第5集 第10編	おしょうがつ お正月
28	昭和26年 2月	第5集 第11編	ゆきのひ 付録「つばめのおうち」 雪の日の子供
29	昭和26年 3月	第5集 第12編	おさるさん 付録「つばめのおうち」猿公
30	昭和26年 4月	第6集 第1編	みんなたのしく 春四月号のころ

32			付録「つばめのおうち」 キンダーブック十カ条 こどものひのうた 作詞
33	昭和26年 5月	第6集 第2編	おおきくなれ つよくなれ こどもの日
34 35	昭和26年 6月	第6集 第3編	きのはなし “木の話”の巻について 付録「つばめのおうち」 ヒル積木について
36	昭和26年 7月	第6集 第4編	おほしさま お星様
37	昭和26年 8月	第6集 第5編	おうちのまわり おうちのまわり
38 39	昭和26年 9月	第6集 第6編	きしゃごっこ 汽車ごっこ 付録1「つばめのおうち」 目的保育案の一例先生方へ
40	昭和26年 10月	第6集 第7編	みち みち
41	昭和26年 11月	第6集 第8編	くまのはなし くまのはなし
42	昭和26年 12月	第6集 第9編	うちじゅうたのしく うちじゅうたのしく
43	昭和27年 1月	第6集 第10編	おおきいな 大きい希望
44	昭和27年 2月	第6集 第11編	ひのいろいろ 火のいろいろ
45	昭和27年 3月	第6集 第12編	にんぎょうのくに 人形の国
46	昭和27年 4月	第7集 第1編	はるのえんそく 春の遠足 付録「つばめのおうち」 リヒターの子供の絵
47	昭和27年 5月	第7集 第2編	うし 愛すべき牛
48	昭和27年 6月	第7集 第3編	かわのたび かわ
49	昭和27年 7月	第7集 第4編	なつがきた 夏が来た
50	昭和27年 8月	第7集 第5編	みつばちのくに 蜜蜂のくに
51	昭和27年 9月	第7集 第6編	スポーツ スポーツ
52	昭和27年 10月	第7集 第7編	すずめ かわいいデモクラチックな雀

53	昭和27年 11月	第7集 第8編	こどものうたマザー・グース マザー・グース
54	昭和27年 12月	第7集 第9編	すみ 炭をつくってくれる人々
55	昭和28年 1月	第7集 第10編	たのしいあそびうた 楽しい遊び歌
56	昭和28年 2月	第7集 第11編	かわいいいぬ 子供となかよしの犬
57	昭和28年 3月	第7集 第12編	はるになる 春になる
58	昭和28年 4月	第8集 第1編	おもしろいな おもしろいな
59	昭和28年 5月	第8集 第2編	うま 馬
60	昭和28年 6月	第8集 第3編	かえる キンダーブック月々の与え方
61	昭和28年 7月	第8集 第4編	たのしいふねのたび たのしいふねのたび
62	昭和28年 8月	第8集 第5編	なつやすみ お休みの中の遊び友だち
63	昭和28年 9月	第8集 第6編	せっけん 石鹸読本
64	昭和28年 10月	第8集 第7編	おいしいな おいしいなあ
65	昭和28年 11月	第8集 第8編	ふゆがくる 冬が来る
66	昭和28年 12月	第8集 第9編	くるみわりにんぎょう 名作「くるみ割り人形」をお子さん にお送りするについて
67	昭和29年 1月	第8集 第10編	どうぶつのおしょうがつ 動物たちにもお正月
68	昭和29年 2月	第8集 第11編	ゆきぐに 雪国
69	昭和29年 3月	第8集 第12編	いきもの いきもの
70	昭和29年 4月	第9集 第1編	はるがきたきた 春が来た来た
71	昭和29年 5月	第9集 第2編	まわれまわれ まわれまわれ
72	昭和29年 6月	第9集 第3編	じょうぶなこども 「じょうぶな子ども」によせて

73	昭和29年 7月	第9集 第4編	うみのうた 「うみのうた」
74	昭和29年 8月	第9集 第5編	なつのむし 「なつのむし」
75	昭和29年 9月	第9集 第6編	おつきさま 「おつきさま」
76	昭和29年 10月	第9集 第7編	くだもの 「くだもの」
77	昭和29年 11月	第9集 第8編	がらす 「がらす」
78	昭和29年 12月	第9集 第9編	三つのおはなし 「三つのおはなし」によせて
79	昭和30年 1月	第9集 第10編	こどものおしょうがつ 「こどものおしょうがつ」
80	昭和30年 2月	第9集 第11編	わたしはせきたん 「わたしはせきたん」
81	昭和30年 3月	第9集 第12編	おやりすこりす 「おやりすこりす」
82	昭和30年 4月	第8集 第4編	みんなでつくりましょう 「みんなでつくりましょう」
83	昭和30年 5月	第10集 第2編	ごがつ 「ごがつ」
84	昭和30年 6月	第10集 第3編	あめのちびちゃんたち 「あめのちびちゃんたち」
85 (86)	昭和30年 7月	第10集 第4編	さかな 「さかな」 (付録「つばめのおうち」 顧問倉橋惣三先生永眠の報告)

(3) 静岡県初の保育絵本『あそび ASOBI』の創刊

『キンダーブック』復刊から2年後の1948(昭和23)年6月5日、片井商会出版部(静岡市:片井正三社長)より、保育絵本『あそび ASOBI』創刊号が発行された。主に幼稚園や保育園に頒布されていた月刊の絵本(定価十八円)で、その後、恩賜財団 静岡県同胞援護会(現・社会福祉法人静岡福祉事業協会)より発行され、県外にも届けられた。(GHQの検閲を受けた時の発行部数は2万部)

静岡県の保育絵本を研究する本学図書館では、同誌の創刊号を古書店より入手し、所蔵している。同誌の創刊号は、国立国会図書館にも所蔵がなく、全国で2誌の所蔵を確認している。(内1誌は県内研究者所蔵)

創刊号には、倉橋の推薦の辞が記載されている。

「幼稚園や保育所の先生方が、最も苦心していただけることは、子どもたちをよくあそばせることである。

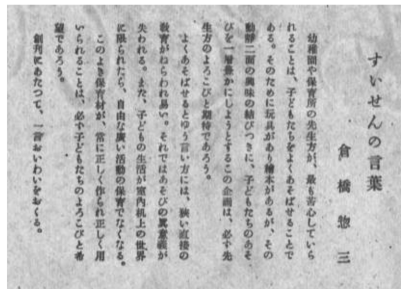
そのために玩具があり絵本があるが、その動静二面の興味の結びつきに、子どもたちのあそびを一層豊かにしようとするこの企画は、必ず先生方のよろこびと期待であろう。よくあそばせると言う言い方には、狭い直接の教育がねられ易い。それではあそびの真意義が失われる。また、子どもの生活が室内机上の世界に限られたら、自由な広い活動の保育でなくなる。

このよき保育材が、常に正しく作られ正しく用いられることは、必ず子どもたちのよろこびと希望であろう。創刊にあたって、一言おいおいをおくる。」

倉橋が、『キンダーブック』で培った人脈を基に『あそび ASOBI』を全国水準の内容として、静岡市葵区末広町の出版社である(株)片井商会から全国の子どもたちに向けて、充実した内容の絵本を提供することが出来る様に、同誌の創刊に大きな役割を果たしていた。倉橋が関わった静岡県初の保育絵本『あそび ASOBI』(株)片井商会)についての考察は次回に掲載予定である。



『あそび ASOBI』
創刊号(本学所蔵)



「すいせんの言葉」 倉橋惣三

おわりに

【倉橋惣三と保育絵本について】

明治 15(1882)年に静岡市鷹匠町で生まれた倉橋は戦前から戦後、そして逝去する昭和 30(1955)年 4 月まで幼児教育の改革者として、日本の幼児教育一筋に情熱を傾けた生涯であると言える。

1936(昭和 11)年に二・二六事件、1937(昭和 12)年に日中戦争がはじまり、教育界および出版界も戦時体制を余儀なくされ、『キンダーブック』は 1942(昭和 17)年 3 月、『ミクニノコドモ』に改題され、1944(昭和 19)年 1 月、第 16 集第 11 編「セキタン ヲ ホル ヒト」をもって終刊を迎える。

1946(昭和 21)年、米国教育使節団の来日時には、倉橋

は日本側教育家委員の一人として任命され、同使節団に向けての幼児教育、保育絵本の必要性の理解に大きな役割を果たし、『キンダーブック』が終戦直後の 1946(昭和 21)年 8 月 20 日復刊を果たしたと考察する。『キンダーブック』巻頭の倉橋の想いを記載する。

「散った後に、落ちた後に、古い根から新芽がふく。新しい種子に、前とは別な花と実が待たれる。その更生の気は勇ましく、成長の力は逞しい。今や初夏の自然がそれであり、立ち上がる国の勢がそれだ。その大きい勢に推されて、幼い子らの園に蘇るキンダーブックの再刊も亦、その一つである。(中略)新しいものによってこそ、子らを新しくし、国を新しくしてゆけるのであるから。裁えよう裁えよう。培おう培おう。幼い子らの園に。」

この言葉こそが倉橋の戦後の幼児教育、保育絵本の再生に向けた想いであると考察する。

【倉橋惣三と静岡の保育絵本について】

倉橋が「すいせんの言葉」を述べている保育絵本『あそび ASOBI』は、『キンダーブック』復刊後、間もない約 2 年後、1948(昭和 23)年 6 月 5 日、(株)片井商会(静岡市:片井正三社長)より、創刊された。

倉橋は、戦後の混乱期にある出身地・静岡市の出版社に協力し、全国水準の保育絵本が創刊された。

同誌は、出版社は(株)片井商会、静岡福祉事業協会、児童福祉会と変遷したが、1982(昭和 57)年頃まで、全国の子どもたちに届けられた。

同誌を出版した(株)片井商会関係者は、『あそび ASOBI』発行権譲渡後、新たに(株)東邦出版を立上げ、保育絵本『フレンドブック』および静岡県初の小学校副読本である『一年の友』、『二年の友』を創刊した。

倉橋が協力した保育絵本の想いは、静岡市の出版関係者により受け継がれ、出版が続けられたのである。

【引用・参考文献一覧】

1. * 『フレーベル館 100 年史』(株)フレーベル館
2. * 『キンダーブック』、『幼児の教育』
(株)フレーベル館
3. * 『観察絵本キンダーブック』第 1 編(B4 判)
※もうひとつの創刊号 (株)フレーベル館
4. * 『あそび ASOBI』(株)片井商会

【注】*本学図書館所蔵

【筆者所属】静岡福祉大学附属図書館